

第4節 健やかで心豊かに暮らせるまち

5 スポーツ・レクリエーション

～市民が自らの健康状態に応じてスポーツやレクリエーションを楽しむことができるまち

<基本計画の目標>

子どもから高齢者までが身近なところで、生涯にわたってそれぞれのライフステージや健康状態に応じて楽しむことができる市民スポーツを振興します。また、そのための活動場所を充実します。

海、山など自然とふれあい、自然環境の保全と調和について理解を深めながら行うことができるスポーツの振興を図ります。

多様なニーズに対応できる体制づくりや公式競技開催が可能な施設整備を積極的に進めるとともに、施設の広域利用をはじめとしたスポーツに関する多様な情報をネットワーク化し、スポーツを身近なものとしていきます。

活動団体への指導・援助や、地域における指導者の養成と資質向上により、スポーツに対する多様な要望にこたえとともに、健康状態にあったスポーツができるよう、推進体制を整備していきます。

<目標指標:市民意識調査による市民の満足度>

市民満足度	当初値	H18 実績	H19 実績	H20 実績	H21 実績	H22 目標値	H22 実績	H23 実績	H27 目標値
「鎌倉市は、市民が自主的に、気軽に、自らの健康状態に応じてスポーツやレクリエーションを楽しむことができる環境が整っているまち」と感じている市民の割合	38.4%	32.5%	27.3%	41.9%	37.6%	48.0%	40.2%	39.3%	53.0%

<6年間の取組の評価>

【市民活動部】

市民のスポーツ環境づくりに向けて、指定管理者制度の導入やライフステージに見合ったスポーツ行事・教室などの実施に努めてきました。これまでの市民満足度は平成20年度の41.9%が最高値であり、平成23年度では39.3%と、平成27年目標値の53%には及びませんが、当初値の38.4%からは着実に上昇しており、これまでの取組の方向性は間違いのないものと考えています。

<今後の方向性>

【市民活動部】

日常のスポーツ実践率54%をめざして、引き続き、全ての市民が身近なところで気軽に参加でき、自ら主体的にスポーツ・レクリエーションが楽しめる環境の整備に努めます。

まちづくりの計画に合わせたスポーツ施設整備の検討や既存施設の上部利用の検討を進め、市民要望の高いスポーツ施設の整備に向けて引き続き関係課等との協議・調整を進めていきます。

スポーツに関するさまざまな情報を、ホームページやツイッター等を活用して市民への提供促進を図り、スポーツをより身近に感じられるよう努めていきます。

鎌倉市民評価委員会の評価

《この分野の6年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見》

- ・プールの広域利用や小中学校のグラウンドと体育館の開放を進めた。また、民間移管を進め指定管理者に管理を移管した。
- ・指定管理者との連絡調整会議による現状や問題点の共有、ニーズに合ったメニューの提供等、利用者の要望を把握し、対応していこうといった姿勢は評価できる。また、地域に向いての体操教室等、地域コミュニティの活性化にも寄与している。しかし、指定管理によってどのような具体策が行われ、そもそもの意図が反映されたかどうかを判断しなければ、更なる評価はできない。
- ・指定管理者制度を導入し、指定管理者による各種のスポーツ教室の実施、また、スポーツ課では、鎌倉の自然を活かしたスポーツ行事の実施などに取り組んでいる。当初43万人だった施設利用者が平成23年度には50万人を突破した。6年間、少しずつであるがスポーツ施設利用者も増加し、日常スポーツ実践者も50%近くを占め、市民が自らスポーツやレクリエーションを楽しめているまちと評価できると思う。スポーツ施設の利用者も、目標値をオーバーしており、施設拡充の要望が強いことが伺える。しかし、利用率が記載していないため、日時を問わず空きがないのか不明である。スポーツ施設の利用者の増加があり、市民ニーズの高い分野だが、新たな施設用の広い土地の確保が難しく、対策が必要である。
- ・リーダーの育成や各種教室などスポーツ振興のための様々な取組を行ってきた。
- ・多様化するニーズと20代30代でスポーツ実践率が低いという状況を把握し、ソーシャルメディアを活用するなどの柔軟な対応を進めてきた。

評価の内訳(委員数)					⇒	評価委員会の評価
◎	1	○	6	△		1

《将来のまちづくりの展望に向けたこの分野に関する意見》

- ・スポーツでつながる人の絆は強く、地域を活性化させる。スポーツを通じて生まれた絆をボランティアや市民活動にうまく導いていくことも必要である。
- ・ウォーキングや家庭でのヨガ等もスポーツの一部と位置づけ、健康のために日ごろから運動する意識を、市民に持ってもらうことが必要である。
- ・高齢者も自分に合った生涯スポーツを継続していければ、健康福祉の面からも良い効果がある。幅広い世代へスポーツ情報を伝えて、きっかけづくりや運動の定着をめざしたい。スポーツ施設や環境の充実のみならず、年齢や体力に応じた、適切な運動に対する指導にも力を入れていただきたい。
- ・超高齢社会と財政難を考慮すると、散策、ハイキングや社寺巡りが楽しめるまち、歩行空間の整備されたまちづくりが望まれる。
- ・スポーツ施設の整備に当たっては、周辺都市との連携のなかで検討していくことが求められる。施設の有効利用を図るため、プール利用における三市一町(鎌倉市・藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町)での広域利用を実施したことなどは、良い試みである。
- ・施設に向けない人に対するスポーツ・レクリエーションの振興も重要となる。
- ・競技スポーツだけのとらわれない柔軟な推進が求められると思う。
- ・民間移管が進んでいるため、運営管理がうまくいっているかモニタリングの充実が必要。
- ・市民が自主的にスポーツが楽しめる豊かな暮らしを保障できる鎌倉市として、指定管理制度の評価や安全の確保を充実させていただきたい。
- ・財政面で難しいと思うが市民ニーズの高い施設の整備を行い、それらの施設が効率的に運営される制度を整えたい。

《この分野に関する総括意見》

- ・高齢化に伴って介護予防が言われる中、若い時から健康づくりに向けたスポーツ・レクリエーションの取組が求められている。スポーツは「健康福祉」等の事業とも密接に関連しているため、関係部局と連携が重要であると考え。福祉関係の部署や子ども関係の部署等と連携し、スポーツ・レクリエーションを通じた健康づくりにもっと力を入れていくのがよい。市民自らが主体となってスポーツ・レクリエーションを楽しみ、健康づくりに励むのが望ましい。財政難を考えると、行政の介助に大きく依存しない方が好ましい。また、健康のためだけでなく、絆づくりの手段としてもこの分野を位置づけたい。
- ・鎌倉の持つ豊かな自然(海・森林など)を利用したスポーツの振興策として、「砂浜でかけっ子」「山野でかけっ子」「健脚づくり」などは好ましい取組であると思う。